

島田市 認定こども園エルフのみらい 園長 中野恵子先生



今回は、島田市東部六合地区にあります認定こども園エルフのみらいを訪問させて頂きました。かわいらしいエルフ（森の精）のシンボルが目を引きまます。

園に入りますと園庭を所狭しと動き回り、伸びやかに思い思いの遊びを展開する子どもたちの笑顔が印象的でした。

昭和四十年代の六合地区は田園地帯から住宅化し、就労人口が大幅に増加してきましたが、保育園が無く、幼稚園では四・五歳児のみを入園させるため四歳未満児を預けられる場所がありませんでした。そのため地域の声から社会福祉法人立の保育園設置の動きが活発化し、昭和五十一年に法人と園が設立され



ました。地域（六合コミュニティ委員会）の中から設立理事を選出し、お寺の境内をお借りしてスタートしました。まさしく地域に寄り添った地域のためのこども園として、現在まで地域の児童福祉を充実させています。定員は百二十三名で地域の保育ニーズが高く令和三年十月現在、百四十三名を受け入れていきます。園舎一階には〇・一歳児室。二階には二歳児・幼児室、ホールがあります。

コロナ対策にも力を入れていて、園内各所に除菌機能のついた空気清浄機が配置されており、光が差し込む明るい保育室でじつくりと活動を進める子どもたちの姿が見られました。

乳児クラスは個々に丁寧な愛着関係を築き、幼児クラスは異年齢（三・四・五歳児）の縦割り保育で幅広い友達との関係を築くなど、様々な人間関係を通して豊かな心の育ちを大切にしています。

保育活動においては、地域の自然環境を活かし散歩に出かけることも多くありますが、現在は、子どもの「やりたい」「やってみよう」という思いに添って環境を整え、子どもたちの遊びが継続し深まっていく過程で、友達と一緒に「集団での学び」や「ひとり一人の学び」ができるように、保育教諭もアクティブラーニングを学んでいる最中です。

また、子どもたちが将来、価値観の多様化やグローバル化する社会の中で、自己肯定感を持ち自分らしさを表現し発揮できるように、ダンス

講師（ヒップホップ等）や外国人講師と一緒に身体表現をして遊ぶ経験を、定期的におこなっているということです。

主体性を高め集団の中で協働しながら、理念の「生きる力の基礎を養う」姿を覗き知ることができました。



（左）エルフのみらい園長 中野恵子先生
（右）エルフのゆめ園長 平野貴久先生



今回はお忙しい中時間を取って下さり、園長先生をはじめとする職員の方々の心よりお礼申し上げます。